平成29年5月21日発行

## 大町山岳博物館友の会 第 171 号

# ゆきつばき通信



## 【報告】平成29年度山博友の会総会 記念講演会

《期日》 4月16日(日) 午後3時45分~午後5時

《場 所》 山岳博物館 講堂

《参加者》 30名

今年度の友の会総会は松井昭さんを議長に行われ、昨年度の報告、新役員、今年度の事業・予算が承認されました。

会議に先立ち、宮沢会長からは、会員が高齢化し子ども中心の行事を計画しても 集まらず、次の世代への引継ぎが課題であること、行事もマンネリ化ではないが新 しいことも考えなければいけないと課題提起された上、友の会は博物館から期待さ れており、連携して盛り上げ、楽しい友の会にしていきたいとご挨拶されました。

鳥羽館長からは、博物館事業を展開する中で友の会が多くの協力をしたことに感謝の言葉をいただき、今年度も友の会と協力していろいろな事業に取り組み盛り上げたいとご挨拶いただきました。また、昨年の麻田さんの講演をふまえ、出された課題を解決していきたいと話されました。

北アルプス地域振興局(旧北安曇地方事務所)環境課より羽山様がおいでになり、県と友の会とで連携して情報を共有化したい旨ご挨拶がありました。県が自然公園の管理やライチョウ保護などの自然保護、環境保全を進める中で、アレチウリ

やオオキンケイギクの繁茂やアライグマの侵入、生態変化が問題となっており、 ライチョウサポータなどにも関っている 友の会の会員には、違法行為、指定外来 生物などに気がついた場合には連絡して ほしいと話されました。

議事等は総会で配布あるいは4月の山 と博物館に同封した総会資料のようにな っています。



#### 講演会

~登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来~ セブンサミッター・ 山田 淳さん

《期日》 4月16日(日) 午後1時30分 ~ 3時15分

《場所》 山岳博物館 講堂

《参加者》 73 名

熱く山田さんのお話に耳を傾けました。

北アルプスの山々の連なりを眺めなが ら大糸線経由で大町入りされた山田さん は、安曇野や大町から見る連山はこの地 の特異なものであり、また、アプローチ ルートが多く、花もいろいろあり、山小 屋も質素なところからホテル並みのとこ ろがあり、良くも悪くもバラエティーに 富んでいると評価されました。

山田さんが本格的に山に取り組まれた のは大学に入ってからで、その目標はキ リマンジャロに行くことにあったようで すが、まず北アルプスを上高地から白馬 まで歩かれました。本当は栂海新道で日 本海に抜ける予定が、二週間も風呂に入 っていない自分の臭さに耐えかねて白馬 で打ち切ったというエピソードもお話し されました。

セブンサミット(七大陸最高峰)は、 登った順に、キリマンジャロ(アフリカ)、 アコンカグア (南米)、マッキンリー (デ ナリ 北米)、エルブルース(欧州)、 コジウスコ (オーストラリア)、ビンソ ンマッシーフ(南極)、エベレスト(ア ジア)。ただ、オセアニアとしてパプア

定員を越える多くの方に応募いただき、 ニューギニアのカルステンツ・ピラミッ ドが含まれる場合があり、これも登られ ています。

> セブンサミットはヒマラヤに行きたか ったことが動機だったとの事、ブームに なっていた事もあり弾みにもなったよう です。最初のキリマンジャロではひどい 高山病で苦しみ、東大病院の低酸素室で データ提供と引き換えに訓練をされまし た。アコンカグアではその成果もあって、 しっかり準備をすれば山は受け入れてく れることを感じたということです。高山 病は症状であって病気ではなく、一旦高 度を下げて眠るそうです。マッキンリー は一番登りがいのある山で、ポーターな どのサポートがなく、期間が長く、自由 だけれど自分の力で登っていく山だそう です。





このころよりエベレストは夢から目標に変化しました。エルブルースからの帰りのシベリア鉄道の観光とはかけ離れた様子、遊歩道をハイキングのように行くコジウスコ、山屋か金持ちしか行かない白い大陸ではGPS位置と周りに他に高いところがないかがサミット、カルステンツ・ピラミッドでは首狩り族の情報でヘリコプターアプローチとなったこと、途中の村で深い意味のあるネックレスを貰ってきてしまったことなどお話が進みました。

スポーツでは、筋量と脂肪量のバランスが競技によって異なっており、登山は一般に脂肪量は少なく筋量が多いことが適していますが、高所登山は脂肪量が多いことが要求されるとのことです。エベレストに向けては二ヶ月分の体力を蓄える必要があり、二ヶ月分の脂肪を蓄え、そしてその体を運べる筋量をつけるのだそうです。二ヶ月間、登ってはキャンプ

に下ってを繰り返し徐々に高度を上げて いく、精神力が勝負の場だということで す。

後半はガイドや登山用品のレンタルを 通した登山人口を増やす活動のお話にな りました。登山人口は平成21年に一時的 に増加したもののまた減っていて、構成 する年齢層も仕事や子育て、介護がいろ いろ絡んで、60代以上が多いようです。 登山も、ハイキング・トレッキングとい う言葉に替えると若い世代に受けるよう です。若い世代はやりたいことがたくさ んあるので、装備を安くレンタルするこ とも登山人口の増加に一役買っているの ではということでした。富士山でガイド をしており、登山する人が装備の不備で いやな思いをして帰ってほしくない、初 めての人でもきちんとした装備で楽しん でほしいと、サポートしているそうです。

さらに環境対策として、登山者の集中を抑える提案をされました。日本の登山者人口は1000万人に届かず、決して多いとはいえず、豊かな自然を知ってもらうためにももっと多くの人が山に親しんでもらえればという事です。学校登山も、体育の延長の修練ととらえられがちですが、理科教育の場、社会科教育の場として幅広く山岳文化を日本文化のために活用されたい旨をお話されました。

以上、講演を録音から要約整理させていただきました。博物館との共催で、山岳文化都市宣言 15 周年、大町登山案内人組合創立 100 周年記念として実施されました。

(編集担当 丸山)

・・・「山と博物館」をあわせてお読みください

# 【共催事業 担当役員報告】 鷹狩山 春のバード・ウォッチング

《期 日》 5月13日(土) 午前10時~午後1時

《場 所》 雨天のため、山岳博物館講堂(座学)

《講師》 腰原正己さん 鳥羽悦男さん

《参加者》 38 名(役員·館職員共)

鳥羽先生からは大町周辺の野鳥を中心にお話いただきました。館の佐藤さんが撮られた写真も含めながら、オオルリとキビタキの鳴き方の違いなど、「聞きなし」についてもお話いただきました。以前の小鳥の声を聞く会の観察情報もずいぶん盛り込んでもらいました。

腰原先生からは生態や見分け方などを含めて猛禽類と水辺の鳥のお話をしていただきました。カモとアイガモのアイノコ、白鳥保護によってバンが棲めなくなったことなどもお話されました。また、中生代にさかのぼって鳥などの生物の進化についてもお話いただきました。



鳥羽悦男先生

腰原正己先生

この後2階の展示室に移動して、はく製展示や羽標本から講習を受けました。

腰原先生は、野鳥の会は鳥類を保護するために規模の大きな組織体制をとっていることをまとめとしてお話されました。鳥羽先生は鳥の見分け方を覚えるためには、繰り返し探鳥会に参加されたいと話されました。

お昼は友の会の仕込んだ山菜汁やトン 汁、山菜のお浸しで参加者のおなかを満 たしました。友の会からも長く繰り返し



参加されたい旨、ご挨拶しました。

最後の質問コーナーでは、モズとは小鳥全般をモズと呼んだこと、宮沢賢治さんの童話の鳥も、賢治さんなりの解釈や視点が盛り込まれていることなど、蘊蓄の深い話もあり、座学は座学なりの充実した会となりました。



## 久々に聞いたこどもの声

生憎の雨となっても決して無駄にしない山博のイベント。座学になっても、申し込みをした人のほとんどの参加があり、小鳥の人気上々である。スライドがあっても、小さい子どもたちは少し退屈したのか、かわいいおしゃべりもあって、久しぶりに「子どもの声を聞く会」を懐かしく思い出した。

珍しい巣の様子や生態の写真を見ながらの説明はよく分ったし、自分でもあのような写真を撮ってみたいなどと大それたことを考えてしまう。フイールドへ出た時は、これまでと目のつけどころが違ってきそうだ。

今回参加した子どもたちが、一つずつ大きくなってまた来年の春のバードウォッチングに参加してくれるといいなと思う。

## 烏帽子の会

## 活動報告 冠着 山

《月日》4月1日(土) 《天気》曇り、霧 《参加者》14名

#### 《コース状況:その他周辺情報》

前日から当日朝までは新たな降雪があり、現地では標高 600m位まで雪化粧であった。山頂部では 20 cm以上の新雪、残雪も下見時から減っていないように思われる。

そんなわけでコースを大幅に変更し、計画した冠着神社鳥居コースは中止し、下山コースとしていた鳥居平からのコースを往復することにした。車が入れなかったため、鳥居平までも積雪のある車道を約2.5km(50分)歩く羽目になった。鳥居平登山口からは、最初工事用道路と思われる広い道を約10分ほど歩き、笹の多い山道に入る。ブナやクルミ、カラ松などの巨木のある緩い道を登ると稜線に出る。登山道は稜線の北側にあるため、残雪が多く、道も間違えやすい。急な部分は丸太で階段が整備される。久露滝からのコースと合流し、北アルプス展望の説明板を過ぎると広く平坦な頂上である。頂上は鳥居や大きな杉の木を伴った冠着神社がある。

「更級や姨捨山の月ぞこれ」(高浜虚子)初め、いくつかの句碑や大きな360°山名

説明銅板、三角点などもある。天 気が良ければ見晴らしがよく、長 野盆地はもとより、富士山も見え るとなっている。今回は何も見え ない。

4月13日まで冬季閉鎖の看板が あったが、冠着側からは途中まで 車が入れた。



#### 《感想》

今年は雪が多く、予想通り山の選定が失敗であった。2週間前の下見では雪はあるものの、本番ではかなり融けているものと楽観視していた。この時期の山選びは、雪が残り、花はなしと難しい。冠着山は4月下旬からが良く、花も多い。道路も冬季閉鎖が解除される。

冠着山は更科山ともいい、俗称姨捨山(おばすてやま)という。姨捨と言えば棚田と月、その棚田を身近で見、長楽寺も参拝した。登山口の一つである上山田温泉にも浴った。

#### 《コースタイム》

松川道の駅 7:40===8:20 冠着駅トイレ、猫駅長挨拶 8:30===8:45 稜線車終点 9:00----9:50鳥居平登山口 10:05----10:50 冠着山山頂(昼食) 11:45----12:10鳥居平登山口 12:20-----13:00 稜線駐車地 13:15 ===13:50長楽寺・棚田 14:45===

15:05 上山田温泉かめ乃湯 16:10

===17:15 松川道の駅



## 〇平成29年度「烏帽子の会」総会報告

今回は、アーネストサトウが歩いた風塩峠を地元のガイドマスターをされていて 烏帽子の会の会員でもある中山さんにガイドをしていただき、地元の方ならではの おもしろいお話しを聞きながら約4時間歩きました。

途中、有川先生が二本松で先回りをして焼肉の準備をしてくださり、おいしいお 肉と焼きそばをいただき、そのあと総会を開催しました。

山行報告の詳細は後日お知らせします。

日 時: 平成29年5月14日(日)AM11:00~PM1:00

場 所: 池田町 二本松

参加者: 14名



#### 平成 29 年度山行予定

7月・・烏帽子岳(1泊2日)

10 月 · · 飯盛山

11月・・尼厳妙山(アマカザリヤマ)

1月・・安曇野国定公園スノーシュー 担当:越山・吉田

3月・・黒斑山スノーシュー 担当:宮澤夫妻・塩瀬

5月・・-未定-

#### 担当:有川・川崎夫妻

担当:松井夫妻·松村·大月

担当:仙波·若林·川合

## 烏帽子の会 平成 28 年度活動報告

1) 5月28日(土) 雨引山(1371m)· 総会 参加者 15 名 (総会+1 名) 総会を兼ねた例会のため比較的短時 間で皆さんが参加しやすい企画にしま した。約4時間30分の山行を終え、 13:30 頃下山し天気が良かったので 「いわさきちひろ美術館」の広場で総 会を開催し今年度の予定を検討し概ね 決めました。



- 2) 7月16日(土) 虫倉山(1296m) 不動滝コース 参加者 12 名 当初「さるすべりコース」予定していましたが、神城地震の影響で封鎖されて いた為「不動滝コース」に変更しました(実際は7月1日には解除されていたよ うです)。曇りのため景色は見えませんでした。頂上は1/3が崩落しており地震 の大きさを改めて感じました。
- 3) 9月10日~11日(土・日) 船窪小屋(七倉岳) 2450m 参加者 13名 今回の山行の目的は船窪小屋のオーナーであり会員の松澤夫妻の傘寿のお祝い することです。80歳になっても元気に小屋に常駐して多くの方に愛されているお 二人にいつも頭が下がります。
- 4) 10月22日(十) 福地山(1672m) 参加者 16名 岐阜県高山市の福地温泉に登山口があり約5時間の行程です。槍・穂高・焼 岳・乗鞍岳を背後から見ることでき、また迫力ある笠ヶ岳が目の前に見え素晴ら しい山行でした。皆さんから雪の時期も登りたいとの要望もありました。
- 5) 平成 29 年 2 月 4 日 (十) 福地山(1672m) 参加者 8名 当初は「横岳」を予定していましたが、前回の山行で雪の福地山の声が多かっ

たので変更、それが大正解!参加者8名と少なかったですが、雲ひとつ無い快晴ですばらしい景色を堪能できました。また、宮澤会長の解説もあり有意義な山行になりました。

6) 平成 29 年 4 月 1 日 (土) 冠着山 (1252m) 参加者 14 名

※山岳博物館ホームページに烏帽子の会の活動報告を掲載しています。その報告に は写真も多くありますので是非ご覧ください。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで。

## 花めぐり紀行

去る4月9日にサークル総会を行いました。

#### 平成 29 年度の予定

5月22日(月) 花めぐり紀行10-ヒメサユリ自生地(三条市)をめぐる

6月18日(日) 花めぐり紀行11 - ササユリ自生地(松川町小八郎岳)をめぐる

8月27日(日) 花めぐり紀行12 -池の平湿原をめぐる

#### その他

- ・博物館所蔵のさく葉標本づくり
- さんぱくこども夏期大学への協力
- ・長峰山草地復元事業の視察
- ・高山植物の植え替え

サークル花めぐり紀行へのお問い 合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで。



## 山岳文化研究会

山岳文化史に興味・関心を寄せる友の会会員が集まり、登山史を含め、北アルプスとその山麓の歴史や民俗などについて、相互に研究を重ねる場です。3ヶ月に1回程度の定期的に会合を持ちながら、具体的な各活動について報告・説明を行い、会員相互で研究を深めています。

- ○研究テーマ 「大町登山案内者組合(現大町登山案内人組合)設立時加入者たちの 群像-ライフヒストリー(生活史)から探る山案内人の横顔-」:29 年度の企画展 関連調査として協力実施しています。
- ○研修会 総会記念講演会~登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来~(山田淳氏)を聴講し、現在の山岳文化の形成に関る実践事例を学びました。
- 〇その他 山岳文化史に関る山岳博物館・友の会共催事業や山岳博物館主催事業へ参加していきます。

(サークル事務局担当:関)

# ボランティアサークル

ボランティアサークルでは、定例的に 第4日曜日に博物館での除草や清掃作 業、山と博物館の封入作業などを行って います。大型連休、盆休みなどの多客時 に館内案内・ボランティア解説を行いま す。また、要請に応じて博物館事業へ協 力していきます。

活動にはボランティア保険への申請登録を行いますので、事務局までお問い合わせください。



○総会 4月29日に総会を行い活動計画、市社協への補助金申請等が承認されまし



た。

○サクラソウ駅前展示 館のサクラソウを信濃大町駅前に移動展示し(4/29~5/21)、灌水等の作業を行いました。 ○付属園まつり協力 4月29日より行われた付属園まつりに協力して、スタンプラリー、クイズの受付を行いました。 活動には昨年作成したユニフォームを着用しています。係員であることが分か

りやすく、お客さんとの対応もスムーズでした。館内案内でも、忙しく対応させていただきました。

◎研修会の予定 今年は7月9日に妙高高原ビジターセンターと野尻湖ナウマンゾウ博物館を訪ねます。妙高では館内ガイドの他、周辺の散策でも動植物を中心にガイドをしていただく予定です。野尻湖博物館は昨年の信州大学自然科学館ミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの?」で「氷河時代のナウマンゾウ



と人類を求めて一野尻湖発掘と地域の博物館が目指すもの一」として発表のあった館で、古環境、地質、考古を総合的に学習できます。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、担当 有川美保子 まで

# 第60回針ノ木岳慎太郎祭開催のお知らせ

6月4日(日)に第60回針ノ木岳慎太郎祭が針ノ木岳大雪渓にて開催されます。 主催構成団体に山岳博物館、山岳博物館友の会は協力団体となっております。針ノ 木岳大雪渓で祭典を行い、その後、記念登山(針ノ木峠まで)、自然観察(祭典広 場→大沢小屋→登山口)が行われます。友の会は自然観察班の協力をします。尚、 今年は大町登山案内人組合が、1917年に百瀬慎太郎が主唱して設立されて、100年 の節目の年です。大町登山案内人 100年の歩みを記念して、博物館で企画展が8月5日~11月26日に予定されています。針ノ木岳慎太郎祭の記念すべき年に、残雪の針

#### ノ木岳慎太郎祭に参加してみませんか。

開催日:6月4日(日)

日 程: 7:30 受付・お祭り広場(扇沢ゲートから徒歩30分位)

9:30 祭典・針ノ木岳大雪渓 10:00 記念登山・自然観察開始

16:00 閉会式・お祭り広場

(例年、記念登山・自然観察それぞれ終了次第解散)

参加費:1人2000円(保険、バッジ、お汁粉、その他)

申込み:当日、現地受け付けにて随時

詳しくは、大町市観光協会、山岳博物館までお問い合わせください。

(有川美保子記)

#### ゆきつばき通信編集室より -

総会、記念講演会と鷹狩山春のバード・ウォッチングの報告、各サークルからのご案内を掲載いたしました。

ゆきつばき通信には皆さんの行事参加感想文や山行の投稿なども載せていきます。ぜひ投稿 をお願いします。次号は秋の予定です。

#### 〔投稿先〕

編集部丸山アドレス takuya-m@juno.ocn.ne.jp (件名に「ゆきつばき通信」を付けてください) もしくは、山岳博物館の事務局にお送りください。

(丸山卓哉)

#### 山博ページ http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

#### 会費のご案内

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会ファミリー 4,000 円 個人 3,500 円 学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生~大学生までをさします。 4月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。 賛助会員につきましてはお問い合わせください。

## ゆきつばき通信 第171号

発行/大町山岳博物館友の会 平成 29 年 5 月 21 日 〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334